

製品名: MY18B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14260**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	282kDa

抗原情報

遺伝子名	MYO18B
別名	MYO18B
遺伝子 ID	84700.0
SwissProt ID	Q8IUG5
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 1680~1760

背景

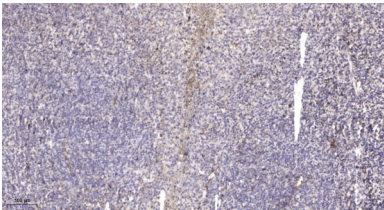
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、核内にあるときは筋特異的遺伝子を制御し、細胞質内にあるときは細胞内輸送に影響を与える可能性がある。コードされるタンパク質はホモ二量体として機能し、Fアクチンと相互作用する可能性がある。この遺伝子

の変異は肺がんに関連している。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発生段階: 誘導後 3 日目に発現がピークに達し、その後の筋管成熟の間、同様のレベルを維持する。、疾患: MYO18B の欠陥は肺がんに関連している。原発性肺がんおよび細胞株の半数で不活性化されている。原因には、欠失、変異、プロモーターのメチル化などがある。、機能: 細胞質内にあるときは筋細胞の細胞内輸送に関与している可能性があるが、核内に入ると筋特異的遺伝子の制御に関与する可能性がある。肺癌の発生において腫瘍抑制因子として重要な役割を果たす可能性がある。、類似性: 1 つの IQ ドメインを含む。、類似性: 1 つのミオシンヘッド様ドメインを含む。、細胞内局在: 未分化筋芽細胞では点状パターンを示す。初代培養心筋細胞および成体筋では核内に局在する。一部の心筋細胞では部分的な筋節局在が認められる。、サブユニット: ホモ二量体。GPA モチーフ (グリシン/プロリン/アラニンに富む) を介して F アクチンと相互作用する可能性がある。、組織特異性: 心筋および骨格筋で選択的に発現する。精巣、脾臓、胎盤、前立腺、肺、胸腺で弱い発現を示す。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。